

7 おおかわケアパス～認知症の経過と対応～

		気付き～軽度	
		認知症の疑い	認知症を有するが日常生活は自立
本人の様子 (見られる症状や行動の例)		<ul style="list-style-type: none"> ●もの忘れがあり、買い物や金銭管理、書類作成に時々ミスが見られる ●同じことをくり返し聞く ●外出がおっくうになる 	<ul style="list-style-type: none"> ●買い物や金銭管理等にミスが増える ●新しいことがなかなか覚えられない ●料理の準備や手順を考えるなど、状況判断が必要な行為が難しい
認知症の人や家族を支援する体制等	医療・相談窓口		地域包括支援センター・ かかりつけの医師・
	予防・通いの場	介護予防事業【元気が出る学校など】 地域サロン【ゆうゆう会】・誰でも気軽に参加できる みんなで交流したり、サークル活動など 【老人クラブ・老人福祉センター・文化センター・コミュニティ 多世代交流【たんぼカフェ（木室校区）・ドリームたくち 趣味や特技を活かして活動【地域での清掃活動・シルバー人材センターなど】	
	介護		
	家族支援・見守り・生活支援	認知症について勉強したり、家族同士の情報交換や 民生委員訪問活動・あんしんカード・ふれあい訪問・ 配食サービス・移動支援【生活支援バス・移動支援団体サポート事業・ 家事援助・大掃除・庭仕事などの依頼【シルバー人材センター】・	
	住まい	見守り付きの住宅【介護老人ホーム・軽費老人ホーム・有料老人ホーム・	
やっておきたい・決めておきたいこと (家族などへのお願い)		<ul style="list-style-type: none"> ■認知症を予防するため規則正しい生活を心がけましょう ■認知症に関する正しい知識や理解を深めておきましょう ■今後の生活設計(介護、金銭管理など)について考えてみましょう 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療や介護について勉強しま認知症を引き起こす病気の種類に間違った対応は本人の症状を悪化 ■できないことより、できること今までできていたことが少しずつなど生活の工夫も本人の安心につましよう。 ■介護保険サービスなどを利用介護保険制度などを上手く利用して、を話したりできる場を持つことも

この表の見方:認知症の症状は左から右に向かって進行します。「本人の様子」の行を見て、当てはまる列の下方を見ると、適切な支援の内容や利用できるサービスが分かります。

		中等度	重度	
		誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要
本人の様子 (見られる症状や行動の例)		<ul style="list-style-type: none"> ●時間・日付・季節が分からなくなる ●薬やお金の管理ができない ●火を消し忘れる ●たびたび道に迷う 	<ul style="list-style-type: none"> ●着替えや食事、トイレ等がうまくできない ●財布などを盗られたと言い出す(物盗られ妄想) ●自宅が分からなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ●言葉によるコミュニケーションが難しい ●飲み込みが悪くなり食事に介助が必要 ●家族のことが分からなくなる
医療・相談窓口		もよりの介護サービス事業所・若年性認知症サポートセンター・認知症初期集中支援チーム 歯科医師・薬局・認知症医療センター【久留米大学病院】		
予防・通いの場		【元気カフェ・認知症カフェ】など センター・図書館など(田口校区)		
介護		通所型のサービス【デイケア・デイサービス】訪問型のサービス【訪問介護・訪問リハビリ・訪問入浴】 宿泊サービス【生活管理指導ショートステイ・ショートステイ】 通所・訪問・宿泊の一体的サービス【小規模多機能型居宅介護】 施設サービス【介護老人保健施設・特別養護老人ホーム】		
家族支援・見守り・生活支援		交流する場【認知症サポーター養成講座・認知症カフェ・認知症の人と家族のつどい】 緊急通報システム・新聞配達等の見守り活動【見守りネット】・行方不明への備え【SOSネットワーク】 介護タクシー・ボランティアの支援【ちょっとかせず隊(田口校区)・チームオレンジ】 認知症などで財産管理、契約の締結・取消しなどが必要になったときに後見人をつけたい【成年後見制度】		
住まい		高齢者向け住宅 家庭的な環境と地域との交流のもとで共同生活する住宅【認知症高齢者グループホーム】		
やっておきたい・決めておきたいこと (家族などへのお願い)		しょう よって、今後の経過や介護の方法が異なります。させる原因にもなります。周囲が適切に対応することで、穏やかな経過をたどることも可能です。 に目をむけましょう できなくなり、失敗が増えていきますが、できることもたくさんあります。分かりやすくラベル表示したり、デジタル時計等を使うようになります。失敗体験は本人の自信を喪失させ、症状を悪化させることもあるので、失敗しても叱ったり責めたりせずフォローをしまししょう 介護する人が過度な負担にならないようにしまししょう。また、同じ立場の人の集まり(家族会等)など、話を聞いたり、自分の気持ち重要です。		

参考:斎藤正彦「家族の認知症に気づいて支える本」